見た！聞いた！やってみた!!

ちいさな記者が大活躍

子ども特集

今年で二回目を迎える子ども特集。今回は子どもが興味を持っていることを応募してもらい、その中から三組の企画を採用しました。夏休みを利用して取材へ出発。取材先では多くの人たちの協力をいただいた上、実際に体験させてもらったグループもありました。さて、その成果はどうなったでしょうか。子どもたちがまとめた記事をご覧ください。

明るく 元気な 子ども記者たち

〈新潟のシンボル万代橋と信濃川〉

東山の下小学校5年生
加藤美弥子さん、藤田純子さん
太田康文くん、中野秀樹くん
（左から）

〈馬を飼育する仕事について〉

太夫浜小学校5年生
神田育美さん、島野幸菜さん
栗原千夏さん（右から）

〈新潟地震について〉

関屋小学校5年生
泉裕希子さん、鈴木繭子さん
米内山明子さん、大縫幸恵さん
高木薫子さん（左上から）

新潟のシンボル「万代橋と信濃川」

私たちのグループのテーマは「新潟のシンボル万代橋と信濃川」。昔・今・未来のことについて調べるため、郷土資料館や新潟みなとトンネル館へ行ったり、万代橋を実際に渡ったりもしました。そうそう、私たちの記者ぶりをテレビ局の人が取材に来たんですよ！

昔のこと　郷土資料館

「テレビカメラを意識しちゃうなあ〜」

今、信濃川にかかっている万代橋は三代目。一・二代目にくらべると長さは短くなったけど、車が増えたので幅はものすごく広くなったそうです。「名前は昔は萬代（よろずよ）橋だったのがいつのまにか万代（ばんだい）橋とよばれるようになった」と郷土資料館の北上さんが話してくれました。

今のこと　万代橋を実際にわたる

「私の方が足が長いよー」

万代橋は短くなった（約3分の1）というけど、実際どうなのかなぁ？「歩いてみたら413歩だった」というのは中野くん。信濃川の河口に港があり、外国からたくさんの船が出入りしていることも港湾事務所で教えてもらいました。

未来のこと　新潟みなとトンネル館

「でっかーい！」

今、信濃川の河口にトンネルをつくる計画がちゃくちゃくと進んでいます。このトンネルは海底に八個のはこを沈めて埋めます。はこ一つの長さは百五㍍、重さは二万六千㌧で、地震にもたえられるようになっています。橋にしないのは、船や飛行機の通行にじゃまになるからだそうです。

リーダーの一言

わたしたちのグループは男女混合だけど、チームワークは抜群。みんな協力して精一杯がんばりました。
加藤美弥子

馬の飼育を見学

きゅうしゃの仕事は朝早い

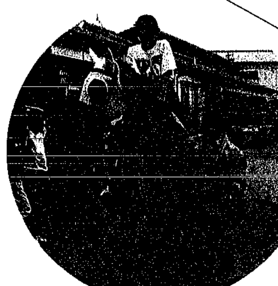
朝4時、競馬場についた時、きゅうしゃ（馬小屋）の中を想像してみました。馬が一頭ずつ入っていて、ぼく場みたいに野原に馬が自由に遊んだり、歩いたりしている。でも中に入ったらびっくり。きゅうしゃの中には多くの馬が入っていました——。

インタビュー

県競馬組合で馬の飼育をしているおねえさんに聞きました

質問	どうしてこの仕事をえらんだの
答	馬だけでなく動物が好きだから
質問	馬の気持ちがわかるようになるの
答	うれしがっているとかだいたいわかるようになります
質問	馬があばれたりして、けがをすることはありませんか
答	足をふまれたり、馬がごはんを食べている時、手を出すとかまれる時があります

馬の飼育は運動ではじまり、そのあいだに小屋のワラをかえる。運動後はシャワーやブラシできれいにあらっていました。



「馬にも乗せてもらいました」

感想（思ったこととか）

いろいろお話を聞いてビックリしたことやかんしんしたことがたくさんあ（た）し馬にものれたからうれしかった。（いくみ）

いろんな人から、いろいろなお話を聞きました。馬（サラブレッド）に乗りました。とても高くて下を見おろす感じでした。馬の仕事は、とてもたいへんで朝早いのに、毎日、この生活をしているのにはすごいなと思いました。がんばりやさんではないと、できないんじゃないかと思いました。（さちな）

競馬場の、馬をせわしている人は馬の後についてもけられなくてすごいなあと思った。わかったことは馬のし（っ）ぽにしるしがついているとけっぽりやすいということ。とてもおもしろかった。（千夏）

市馬術競技場にもおじゃましました。おにいさんのように私たちもはやく乗りた〜い。

新潟地震について取材

いざという時どうしよう

私たちは、新潟地震ってどんなだったのかな？と思って、取材を開始しました。当時の様子を聞いたり気象台へ行って地震のひがいを調べたりしました。一番ためになったのは、地震体験車「なまず2号」に乗ったこと。いざという時のために、私たちの記事を読んでね。

地震体験車で初めて大きな揺れを体験

「なるほど」

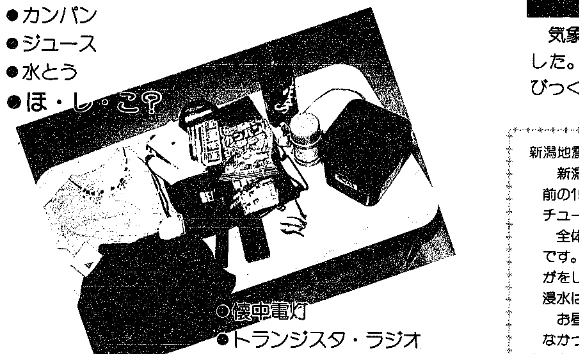
当時の様子を近所の大谷さんに聞いてみました。写真を見せてもらったら、アパートがたおれたり、じわれがあったりしてびっくりしました。

気象台に行って、地震のひがいを聞きました。ここにはいろいろな機械があってびっくり！

私たちのひなん袋

地震がきたら、これを持ってにげよう！

- カンパン
- ジュース
- 水とう
- ほ・し・こ?



- 懐中電灯
- トランジスタ・ラジオ
- 着がえのTシャツとズボン
- クーラーボックス?
- バンソウコウ

カンヅメは
いらないのかな？

調べてわかったこと

新潟地震はどんなだったの？

新潟地震がおきたのは、私たちが生まれるず〜と前の1964年（昭和39年）6月16日13時2分。マグニチュード7.5だったそうです。

全体で亡くなった人は26人、けがをした人は447人です。このうち新潟市で亡くなった人は11人で、けがをした人は129人です。全焼した家は290件、床上浸水は9,149件もあったということです。

お昼ごろだったから、亡くなった人はあまり多くなかったそうです。（よかったネー）

もしも地震が起きたらどうしよう—

まず、ガスの元せんをしめて、日ごろから用意しておいたひなん袋を持って、安全な所へにげること。（地震がおきたらたいへんだなー）